

会議録

令和5年11月15日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和5年度第5回定例会
開催日時	令和5年9月20日(水) 18時30分から20時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、荒井茂、小池教之、下坂小百合、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子、高井正 職員：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)
欠席者	高橋浩一、辻康一、石川健
議題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和5年度第3回定例会会議録(案)について(資料1)</p> <p>(2) 令和5年度第4回定例会会議録(案)について</p> <p>(3) 令和4年度公民館事業評価について</p> <p>2 主催事業について</p> <p>(1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2)</p> <p>(2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3)</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 行政報告</p> <p>(2) 公民館だより編集室報告</p> <p>(3) 西東京市教育計画策定懇談会報告</p> <p>(4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告</p> <p>4 事務連絡及び情報交換</p> <p>(1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修会について</p> <p>(2) 令和5年度第1回利用者懇談会について</p> <p>(3) 西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会委員について</p> <p>(4) 令和5年度第6回定例会の開催について</p> <p>(5) その他</p>
会議資料の名称	<p>【配布資料】</p> <p>資料1 令和5年度第3回定例会会議録(案)</p> <p>資料2 令和5年度公民館主催事業報告書</p> <p>資料3 令和5年度公民館主催事業計画書</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(2名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和5年度第3回定例会会議録(案)について(資料1)</p> <p>●令和5年度第3回定例会会議録(案)について承認</p> <p>(2) 令和5年度第4回定例会会議録(案)について</p> <p>●令和5年度第4回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、一週間以内を目途に修正意見を事務局に送ることとする。</p> <p>(3) 令和4年度公民館事業評価について</p> <p>○A委員</p> <p>3回の検討会を経てまとめた評価表案について、修正意見等あれば、出していただきたい。</p> <p>○B委員</p>

検討会后、評価表の項目（５）「長期的視点での人づくり」評価区分「地域づくり」評価内容「市民参加」の二次評価欄の課題に、「子どもにとって預けて学ぶ意味はどうかについてでも保育と事業両面から考えていく姿勢が大切である」と追記した。

○C委員

保育付き講座については、保護者にとって子どもを預けて学ぶ意味は何かと考えてきたが、子どもにとってどうかということや、よりよい環境での保育を保障するということが同様に大切であるということか。

○D委員

子どもを保育室に預けることや保育室の運営を通して、子どもと保護者の両方の学びを保障するということからすると、記載すべき欄は、評価内容「市民参加」ではないのではないか。

○B委員

評価表の項目（１）「学級・講座」評価区分「個別事業」評価内容「だれもが学べる学習機会の提供」が適切かもしれない。

○D委員

保育室の運営にかかわることも学びになるような事業運営にしてほしいという意味で、そこに移すとよいのではないか。（※移すこととなる。）

同じ評価内容「市民参加」の課題についてだが、「学びの場」という漠然とした言い方ではなく、「利用者懇談会が、公民館についての学びや話し合いの場になるような運営を」とした方がよい。

○C委員

評価表の項目（２）「施設管理」評価区分「防災」評価内容「防災」の二次評価欄の課題の中に「啓蒙」という言葉が使用されえているが、「無知な人に教える」という意味の言葉なので、「働きかけ」など、他の言葉に変えていただきたい。

○A委員

評価表項目（１）「学級・講座」評価区分「個別事業」評価内容「プロセス重視の運営」の二次評価欄に今後の課題として「まつり」について書かれているが、参加者の世代交代を見据えた運営が必要である旨、追記した方がよいという修正意見が寄せられていた。公民館には世代交代はないように思うので、「多世代の参画や後継者の拡大を見据えた運営」としたい。

今回出された意見をふまえて修正した評価案を次回の定例会で提示する。

事業評価については、二次評価を行う時点で、E委員から、現行の評価方法について疑問があるという声が寄せられていた。E委員からご発言いただきたい。

○E委員

西東京市の公民館事業評価は、公民館運営審議会の答申に基づいて現行の評価表で行われているが、一定期間が経過したので、評価方法の見直しも必要ではないか。全国ではいろいろな評価が行われており、事業評価をしていない市もある。事業評価をどのように行ったらよいか、考えてみてもよいのではないか。

○事業係長

西東京市教育計画が来年度から変わることもふまえ、公民館として、事業評価のあり方について検討したい。

○A委員

東京都公民館連絡協議会に加盟している市の中で、西東京市のような事業評価を行っている市は他にない。しんどい作業ではあるが、事業評価で指摘したことが、1～2年後に反映されていることを実感できる。このような機会はあってもよいと思う。公民館には、評価表を見やすくするなど工夫していただきたい。

○C委員

公民館職員にとっては、振り返りの機会になっていると思う。毎回の定例会では、個々事業計画書、事業報告書を見ているが、事業評価表では一定整理されて、数字等の実績等が出てくる。両者を重ねて読み解くことで、新たな気付きもあるし、個々の事業計画書、事業報告書では見えないものが見えてくることもある。事業評価は、評価したことをどう反映していくかが大切。その後の事業計画書等で、いかに反映されたかを見ていくことができるだろう。

○F委員

大変な作業だと感じたが、行った評価はこの先の事業に反映されているので、この時間は大切だと思う。

○G委員

他課の事業評価にもかかわっているが、その評価表は30ページにも及び、ざっくり行う。公運審が行う事業評価は、ひとつひとつ丁寧にいき、次につなげていく点がすばらしいと思う。

○A委員

公運審が評価した事業の継続を市に保障してもらうために、評価表には、正規職員の増員を求める付帯意見を付ける。

2 主催事業について

(1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2)

○D委員

子ども向け学習講座「あなたの睡眠、たりてますか？」(谷戸)について、計画書が提出された際、私は、学校教育の中で取り扱う内容ではないかと指摘した。報告書の担当の考察・課題欄に「公民館は学校教育の補完的役割もあると思う」と書かれているが、私の指摘を受けて、館内で検討したのか。参加者が少なかったのも、その捉え方に起因するのではないか。子ども体験講座「折り紙で立体作りに挑戦」(芝久保)についても、学校教育の補完という感覚を感じる。両事業とも、館内でどのような議論がされたのか。十分議論されれば、公民館事業としてひねりのあるものにできたのではないか。日程的に公運審での指摘が遅すぎたのであれば、今後、計画書を提出する日程を検討してほしい。館内でもっと議論してほしいし、公運審委員として、学校教育の補完という感覚は改めてほしい。

親子講座「カヌレ型でできちゃう！かわいいカップケーキづくり&SNSにアップしよう♡」(保谷駅前)について、その後、地域のいろいろなお店とつながりながら、その力を活かすという発展の方向性を意識しているのか。みんなで一緒につくって楽しい思い出になっただけで終わらせるのだとしたら、市民が参加しやすい事業を行うことは大切だが、そういう事業をたくさん行う方向で進むのはよくないと思う。今後、担当職員がどのような問題意識を持つかが問われる。

○分館長(保谷駅前)

親子講座(保谷駅前)について、父親の参加も多く、父子の交流の機会にはなったが、館内で今後の展開について話し合っていきたい。

○B委員

親子講座(保谷駅前)について、地域の一事業者に講師を依頼したということだが、公民館として、どうとらえて、そこに依頼したのか。一事業者の利益につながるだけで終わってしまうので、地域を巻き込む視点も必要だったと思う。

子ども向け学習講座(谷戸)について、「ほっとする相談室のようで、とてもリラックスできる時間」という保護者の感想があるが、講師の質がとてもよかったのではないか。学校の授業とは異なる、公民館ならではの取り組みもできたのではないかと思う。もったいないと感じた。

○D委員

なぜ、子ども対象に睡眠を取り上げるのかについて、館内で議論すれば、例えば、眠れずに困っているのは高齢者だ、親も眠れずに悩んでいる等の話が出て、学校の授業とは異なる内容の講座にできたのではないか。子ども体験講座(芝久保)について、空間感覚を養うこと等が目的となっているが、公民館でどういう事業を行うかを議論していけば、最初の発想から豊かに展開していく。事業を企画する段階で豊かに膨らませていってほしい。

○A委員

夏休み青少年ウィーク(谷戸)、高校生が考えた親に教えたい講座「スマホから始まる親子関係」(谷戸)について、準備会を多く開催しているが、その理由とどのような組み立てをしたのかを知りたい。

コンサート「8.6若い世代の平和コンサート～歌で想うアメリカ日系人の歩みと私たちの未

来～」（谷戸）について、参加者の総数と年齢層別参加者数の合計に大きな差があるのはなぜか。

○分館長(谷戸)

夏休み青少年ウィーク（谷戸）、高校生が考えた親に教えたい講座（谷戸）について、準備会に参加する高校生ボランティアの都合の付く日がまちまちだったため、回数が多くなった。回数は多かったが、準備会での議論が講座の企画に反映されていったので、高校生は積極的にかかわっていた。コンサート（谷戸）について、人数の齟齬の理由については、次回報告したい。

○C委員

コンサート（谷戸）について、「講師4人分の謝礼が講師1人分（2万）となった」とあるが、どういうことか。

○分館長(谷戸)

本事業は、当初、講師1人で企画し、依頼したところ、講師の希望により演奏者3人にも来ていただくことになった。その結果、3人にはボランティアで演奏していただいた。

○C委員

今回は、ご本人たちは承知の上ということを知った。そのことも報告書に記載していただきたい。また、市民活動に対しても対価を払って協力していただくのが本来だと思うので、今後、謝礼について検討していただきたい。

○D委員

夏休み青少年ウィーク（谷戸）について、高校生ボランティアは学校でそのような課題が出され、それで参加したということはなかったか。

○分館長(谷戸)

学校からの課題ということではなく、高校生がボランティア部に所属しており、公民館にボランティアとしてかかわれることはないかという問合せがあったことがきっかけとなっている。

○D委員

経済的に厳しい家庭の子どもたちの学習支援は、いろいろな公民館で行われており、一般的によいこととされている。しかし、それは、多くの場合、受験勉強の支援で、ボランティアには教える力が求められる。ボランティアには弊害もある。教える姿勢や教える力が必要になることを考えると、公民館は、責任を伴うということを経験できるような事業を行うと、質も高くなると思う。高校生は、自分がやりたくてやっている。善意でも結果として悪いこともある。高校生にとっても学びの場となるような事業であるとよいと思う。

○H委員

高校生が考えた親に教えたい講座（谷戸）について、私も参加した。とてもおもしろかったし、個人的に参考にもなった。家族で参加した方の生々しい議論もあった。ひとつ、気になったのは、講師を務めた高校生が意見を言ったところ、講師の大学教授がそれを否定した場面があった。私は、みんなの前で否定された高校生のことが心配になった。事前の打ち合わせが必要だったのではないか。高校生は、講座で話すために準備を重ねていた。事前に大学教授の指摘があったら、高校生はそれを受けて、さらに検討することができた。講座参加者の中で、講師が講師を否定するという事はしてほしくなかった。討論しあう面白さを伝えるのであれば、そのように企画すればよかったと思う。

(2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3)

○E委員

平和を考える講座「このまちにも戦争があった～中島飛行機武蔵製作所と空襲遺跡を辿る～」(芝久保)について、昨年度は戦跡フィールドワーク、今年度は中島飛行機武蔵製作所を取りあげる点に違いがあるが、どちらも戦争の悲劇と平和の尊さという切り口。それはとても大切なことだと思うが、今後は、別な切り口でお願いしたい。過去志向、問題志向ではなく、人がどう生き延びたのか、学校はどうしたのか、食事はどうしたのか、インフラが破壊された時どう対応したのかなど、いろいろな問題をどう解決したか、という視点があってほしい。高齢

者と話をすると、未来が明るくなると感じたいという希望を持っている。解決志向、未来志向の講座であってほしい。若い世代に伝えるという目的もあると思うが、昨年度の報告書を読むと、参加者の大半は60歳以上の高齢者。戦争の悲惨さと平和の尊さという切り口に加えて、問題をどう解決したかという視点も取り入れてほしい。

○分館長(芝久保)

事実を学び、史跡を辿るという講座だが、問題にどう対応したかや、未来に生かす視点を取り入れることを検討したい。

○D委員

平和をテーマとした事業はどうあるべきかについて、公運審で、幅広く議論するとよいのではないか。1館だけで平和をテーマとした事業を考えるのではなく、公民館全体で議論するとよいのではないか。

○C委員

学んだこと、気が付いたことをどう活かすか、ということがないと学びの振り返りにはならない。未来志向で、学んだことを振り返ることが大切。

○B委員

西東京市は、旧田無市、旧保谷市の頃から、非核都市宣言、平和宣言をしてきたので、市民はその意識を培っている。今の各委員の意見を公民館職員に伝えてほしい。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

8月22日開催の教育委員会定例会で、事務報告書に準じた内容で、令和4年度の公民館活動実績報告を行った。令和4年度事務報告書は、いずれ市ホームページで公開されるので、ご覧いただきたい。令和4年度に実施した主催事業数は6館合計で77事業、総実施回数は605回、参加者数は10,096人。学習支援保育の利用者数は6館で3,119人。部屋の利用については、6館の延べ利用者数は179,879人。令和3年度は田無公民館が休館中であったが、そのことを考慮しても、緩やかに増えてきているといえる。

(2) 公民館だより編集室報告

●担当委員より、9月11日開催の編集室会議について報告。10月1日号一面の特集記事について、紙面では十分伝えきれなかった内容を市ホームページで紹介する予定。

(3) 西東京市教育計画策定懇談会報告

●担当委員より、懇談会について報告。

(4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

●8月は開催されなかったため、報告はない。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修会について

●10月14日に国立市公民館で開催される研修会に、西東京市から委員4名が参加する。

(2) 令和5年度第1回利用者懇談会について

●実施された田無・芝久保・ひばりが丘・保谷駅前公民館の利用者懇談会に参加した委員が、実施内容と感想等を報告。D委員から、秋の利用者懇談会は次年度の主催事業についての意見・要望等を聞くことを目的として開催されるので、公運審で、参加者全体で公民館事業のあり方について話し合える会にしていくための工夫を考えたいという提案があった。

(3) 西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会委員について

●公民館運営審議会から青木委員を推薦する。

(4) 令和5年度第6回定例会の開催について

日時：令和5年10月18日(水) 午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室

(5) その他